

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

滑る～環境を活かして～／奈良市立都跡こども園

築山、芝生の山、土山など園庭に起伏のある環境はありますか？その環境をどのように活かして、保育を進めていますか？
また、子どもたちが、園の環境の特徴を活かして、自分たちの遊びを創り出している姿はありますか？
園庭での遊びを通して、自分たちの発見や気づきを、友達と一緒に試したり、共有したりしながら、遊びをより楽しくしていく子どもたちの姿をご紹介します。
そのプロセスで子どもの姿を捉え、その姿に添って、保育者の関わりや環境構成の工夫をしていることが読み取れます。



● ウォータースライダーをしよう！／5歳児

昨年の5歳児が、築山の上から水を流して滑っていたことを思い出して、今年もウォータースライダーが始まった。今年、園庭に新たにできた芝生の山にブルーシートを敷き、バケツの水を流して滑り始める。

✦ ブルーシートを濡らして滑ろう

- 「濡れてる方がよく滑るんだよ」と、昨年の経験から、数名の子どもたちが、バケツの水を流し、ブルーシートを濡らしてから滑り始める。濡れたブルーシートの上に座って滑るが、思うように滑らなかった。
Aちゃん：「あれ？あんまり滑らないね」
Bちゃん：「水が足りないのかな？」
Cちゃん：「もっと水を汲んでこよう」
- バケツの水を流したり、滑ったりしているうちに、バケツの水を流すと同時に滑ると、良く滑ることが分かった。友達と協力し、友達の合図を聞いて同時に滑ることを楽しむ。
Dちゃん：「水、流すよ！せーの！って言ったら滑ってね！」
Eちゃん：「いくよー！せーの！！」
Fちゃん：「わあ！速い速い！」



新しい発見に繋がる不思議：「どうして？」「発見」

- ブルーシートを濡らしているのに、思ったように滑らない。
- バケツの水を流すのと、滑るのを同時に行うとよく滑る。

「科学する心」に繋がる幼児の気づきや学び

- ブルーシートを濡らすと、よく滑るということ、昨年の経験や遊びの中での知識を使い、試す。濡らすだけではあまり滑らないことに気付く。
- バケツの水を、滑るのと同時に流すことで、さらによく滑ることが分かり、摩擦の原理を体感しながら遊んでいる。友達と交替しながら、タイミングを合わせて何度も繰り返し滑る。


環境構成・保育者の援助

- 大きいタライやベビーバスに、たくさん水を溜めておく。
- 保育者も一緒に滑ることを楽しむ。よく滑る方法を自分たちで考えられるように問いかける。「同時に滑ったらよく滑るね」と共感し、繰り返し遊ぶ姿を見守る。

✦ ソリを使って滑ってみよう

- よく滑った方がスピードが出て面白いと感じた子どもたちは…。
『もっと滑るようにするには?』『もっとスピードを上げるには?』どのような方法があるか考える。
Gちゃん:「ソリで滑ったら、シューって滑った!」
Hちゃん:「おしりで滑るよりスピードが速いよね」
Iちゃん:「私も、ソリを使ってみる」
Jちゃん:「ソリを持っておかないと、ひっくり返るよ」



- 以前、築山で使っていたように砂場の道具の“砂あつめ”をソリのようにして滑ってみると、スピードが出る。何度も楽しむうちに…。
Jちゃん:「僕分かった!!足を上げたらすごいスピードがでるよ」
Kちゃん:「本当!すごいスピードがでる」

新しい発見に繋がる不思議:「発見」「分かった」

- “砂あつめ”をソリのようにして滑るとスピードがでる。
- 滑る時に、足を上げると、さらにスピードがあがる。

「科学する心」に繋がる幼児の気付きや学び

- ソリに乗って、バランスを取りながら何度も滑り、どんな体勢で滑るとスピードがでるのか試す。
- 何度も滑っているうちに、足を上げて滑る体勢で（お尻だけで）滑ると一番スピードが出ることに気付く。

環境構成・保育者の援助

- いろいろな物を使って、滑る方法が試せるようにバケツや“砂あつめ”などを、子どもたちの扱いやすい場所に出しておく。
- 「ソリで滑ると、スピードが出るね」などと子どもたちの気付きを認めたり、他の子どもたちに知らせたりする。

✦ みんなで滑ろう!

- バケツで水を汲んで流していた子どもたちだったが、「このお風呂の水を、一気に流したら面白そう!」「一回流してみて!」とベビーバスの水を流してみる。「滝みたい」「わあ、みんな流された!」
Lちゃん:「お風呂の水で、みんな流れていった!」
Mちゃん:「滝みたい!」
Nちゃん:「もう一回しよう!」
- 芝生の山をかけ登ろうとするが、ブルーシートの斜面に残った水があり、そのままお腹で滑ってしまう。なんとか必死に上まで登り、今度は「お腹で滑ってみよう」と滑り方を変える。
- ベビーバスのたっぷりの水で、友達みんなで滑るということが、子どもたちにとっては面白く、何度も水を溜めては水を流し、前向き後ろ向きなど、体勢を変えながら滑った。



新しい発見に繋がる不思議:「発見」

- たくさんの水を流すと、友達みんなで滑ることができる。

「科学する心」に繋がる幼児の気付きや学び

- 水の量が多いほど水圧が高く、勢いよく水が流れるため、みんなで滑れることに気付く。

環境構成・保育者の援助

- 繰り返し滑ることを楽しんでいたので、たくさんの水を繰り返し使えるように、ベビーバスに水を溜めておく（芝生の山の上）。
- 「大発見だね」「みんなが一度に滑ることができるね」と一緒に楽しさを共有しながら、繰り返し遊ぶ姿を見守る。

✦ 振り返って

- ウォータースライダーで繰り返し遊ぶ中で、「どうしたらよく滑るようになるか」「スピードが上がる方法はないか」子どもたちは考えた。そこで、①バケツの水を流すと同時に滑る、②道具を使って滑る、③体勢を変えて滑るなど、様々な方法を発見した。
- 保育者が、水をたくさん使えるようにベビーバスに溜めておく、幼児の扱いやすい場所にソリになりそうな物やバケツをたくさん用意しておくなど、子どもたちが自由に選んで使えるように構成したことで、繰り返し試すことができ、いろいろな気付きや発見に繋がった。
- 水を溜めたベビーバスを芝生の山の上に置いたことで、たくさんの水を一気に流すと、みんなで勢いよく滑る（流れる）ことが新たに分かり、楽しさを共有しながら何度も楽しんだ。
- 保育者が、幼児の思いや発想を受け止め見守っていくこと、意図をもって十分に楽しめる環境を用意することで、『今度はこれを試してみよう』『こうなるに違いない』という幼児の思いが生まれ、主体的な遊びが展開していった。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」